

大雪山国立公園 東大雪地域 登山道関係者による情報交換会
議事概要

■日 時：平成 29 年 6 月 16 日（金）13:30～15:30

■場 所：上士幌町役場 2 階 A 会議室

■議事録

1. 開会

（上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官）

- ・登山道関係者による情報交換会を最初に行ったのは平成 23 年のこと。その後 6 年ほど継続して開催しており、関係者の横の連携強化という点では少しずつ前進していると感じている。
- ・一方で、登山道の荒廃やトイレ問題など、目前にある課題は依然としてたくさんあるため、今シーズンもみなさんと連携しながら諸課題に対処していきたい。ぜひ活発な意見交換、情報共有をお願いしたい。

2. 上士幌町 千葉与四郎 副町長より御挨拶

- ・日本百名山がメジャーになり、登山愛好者が急増したと聞く。登山愛好者が増えることは観光振興面では歓迎すべきところだが、一方で、本日の議題にもあるように登山マナーの問題もクローズアップされているところ。登山が国民のレジャーとして今後も発展していくためには、登山道の整備に加えて、マナーの啓発も重要と感じている。
- ・昨年 8 月の台風により、東大雪地域の林道や登山道は深刻な被害を受け、現在多くの山に登れない状態である。国や道、自治体、登山道関係団体が復旧に向けて努力をしているところであり、当町としても一日も早く復旧の目途をつけたいと考えている。
- ・登山道関係団体が連携を深め、自然と調和した登山環境の維持、保全が図られることを願い、御挨拶とさせていただきます。

3. 情報交換

○ 各団体の平成 29 年度活動予定について

- ・十勝西部森林管理署東大雪支署、十勝総合振興局、上川総合振興局、士幌町、上士幌町、鹿追町、新得町、ひがし大雪自然ガイドセンター、然別湖ネイチャーセンター、新得山岳会、十勝山岳連盟、日本山岳会北海道支部、山のトイレを考える会、北海道山岳整備、山楽舎 BEAR、上士幌自然保護官事務所より資料 1～10 に沿って説明。（欠席した大雪山国立公園パークボランティア連絡会については上士幌自然保護官事務所より資料 9 を代読。）
- ・資料に記載された内容の他に説明がなされた内容は以下のとおり。

(上士幌町)

- ・ウペペサンケ山の登山道整備については、実施の可否は未定。関係機関と協議中である。

(新得山岳会)

- ・本日6月16日に、新得町、新得警察署、十勝西部森林管理署東大雪支署、新得山岳会で、トムラウシ山の雪渓上にカラー石灰撒きを実施している。カムイサンケナイ川のコマドリ沢付近では、まだ5～6mの積雪があり、道迷いの恐れがある。

(山のトイレを考える会)

- ・資料7中の「大雪山国立公園東川地区登山道維持管理連絡協議会」は「東川町大雪山国立公園保護協会」の誤りである。

(北海道山岳整備)

- ・今年度は、美瑛富士での携帯トイレブース設置や南沼での植生復元対策等、トイレ関係の事業にも携わる予定がある。

(大雪山国立公園パークボランティア連絡会)

- ・毎年実施してきたヒサゴ沼でのロープ張り等の作業については、今年度はクチャンベツ沼ノ原登山口にアクセスできないことから、実施しない。

(上士幌自然保護官事務所)

- ・登山者カウンター設置による入山者数の把握について、昨年の台風被害で登れない山が多く、今年度はトムラウシ山の両登山口のみでの設置になる。

(上川自然保護官事務所)

- ・13日に開催された表大雪地域登山道関係者による情報交換会からの情報として、クチャンベツ沼ノ原登山口へ通じる層雲峡本流林道については、上川中部森林管理署が平成29～30年度にかけて復旧工事を行うと聞いている。
- ・昨年度に、黒岳から十勝岳までの縦走線上の標識や避難小屋で外国語の落書きが見つかった。昨年度中から各施設の所有者と連絡を取りながら消しているが、一部未対応の場所もあり、今年度も消す作業を行いたい。ご協力をよろしくお願いいたします。

○ 話題提供

● 登山道等に関する現状と課題の共有

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

- ・資料11に沿って説明。
- ・南ペウトル山のササ被りが解消されたこと、白雲山の湖畔側登山道に複数のかかり木が発生していることが、昨年度の冬に示した資料からの変更点である。
- ・お気づきの点があれば随時情報提供いただきたい。

● 大雪山における避難小屋・野営指定地の利用実態調査と登山道の荒廃状況の情報収集への協力について

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

- ・資料 12 に沿って出席者に協力を依頼。

<質疑応答>

(北海道山岳整備 岡崎代表)

収集した情報はどのように活用されるのか。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

情報交換会などの場での共有のほか、登山道管理者へ連絡し対応の検討を依頼するために活用されることが想定される。

● 歩道等維持管理マニュアルについて

(上川自然保護官事務所 榊首席自然保護官)

- ・資料 13 に沿って説明。

<質疑応答>

(ひがし大雪自然ガイドセンター 河田代表理事)

今後の登山道整備に向かって一歩前進したものの理解した。できるだけ簡易な手続きで整備ができるようになることを望んでいる。

(北海道山岳整備 岡崎代表)

2～3年前、雲ノ平で段差処理工が行われた際は、施工がかえって流水による侵食を招く結果になってしまった。登山道整備は技術や知識のない人ができることではないので、誤った施工をしないようにブレーキをかけるような仕組みも必要だと思う。

(上川自然保護官事務所 榊首席自然保護官)

現在の案では、計画段階で必要に応じて専門家を紹介することとしている。専門家の意見や指導を踏まえながら、工法を検討できると良い。

(十勝山岳連盟 齊藤会長)

倒木の処理など、気がついたときにその場で実施できれば良いこともある。関係機関に報告、協議してからの対応だと、何度も登り直さなければならず手間なことがある。

(上士幌自然保護官事務所 原澤自然保護官)

どこまでの作業が手続き不要で、どこからが必要なのか、もう少し具体的に明示してあると良いのかもしれない。

(北海道山岳整備 岡崎代表)

りんゆう観光が 400m ほどの遊歩道を整備したが、民間事業者が歩道の執行者となる場合は有料になるのか。

(十勝西部森林管理署東大雪支署 日野事務管理官)

民間事業者の場合、国有林の貸付けは有料となり、資本なども含めて細かく審査する。遊歩道や登山道として地方自治体に貸与する場合は無償である。

(上川自然保護官事務所 榊首席自然保護官)

民間事業者が主体的に維持管理に携わる際は、国や自治体に執行者となってもらい、維持管理を執行者から請け負うといった形が考えられる。

● 大雪山国立公園における協働型管理運営体制の構築に向けて

(上川自然保護官事務所 榊首席自然保護官)

- ・資料 14 に沿って説明。
- ・平成 5 年に大雪山国立公園連絡協議会が現在の体制になってから 20 年以上が経過している。大雪山国立公園の将来像を共有し、今ある課題に対処していけるような新たな体制作りの必要性について、環境省で検討を進めているのでご承知置きいただきたい。

<質疑応答>

(鹿追町 大西主事)

「大雪山国立公園の目指す姿」の実現のためには、登山道の事業未執行区間の解消が重要と思うが、環境省自らが新規に執行したり、自治体へ執行を働きかけたりする予定はあるのか。

(上川自然保護官事務所 榊首席自然保護官)

おっしゃるとおり重要な問題で、未執行区間の解消に向けて議論をしていくこととしている。個人的な意見であるが、まずは環境省が今以上に執行を頑張ることができる最大限の範囲を検討、明示した上で、その努力に呼応する形で自治体等にも新たな執行や充実した管理が進められ、全体として課題を解決していくという進め方が良いと思っている。

(山のトイレを考える会 仲俣事務局長)

避難小屋やトイレの老朽化が深刻化している。将来的な修繕を見据えて、今のうちから利用者数を把握し、施設の形態や規模を考えておかなければならないと思う。

(ひがし大雪自然ガイドセンター 河田代表理事)

当方も様々な協議会や会議に参画しており、あちこちで同じような話をしている状況。一元的に議論できる場のある、シンプルな体制があると良い。

4. その他

(日本山岳会北海道支部 藤木事務局長)

ニペツツ山幌加温泉コースについて、車両はどこまで入れるようになるのか。また、駐

車場所の広さはどれくらいか。

(十勝西部森林管理署東大雪支署 日野事務管理官)

既設の作業道を途中まで2 kmほど整備する。整備終点が新たな登山口となるが、20台程度駐車できる広さがある。

(上士幌町 伊藤主任)

新たな登山口には町で簡易トイレを設置する予定。

(山のトイレを考える会 仲俣事務局長)

大雪山グレードの標識整備は今後各登山道で順次行われていくのか。また、新しい標識の耐久性はどうか。

(上川自然保護官事務所 梶首席自然保護官)

愛山溪沼の平やトムラウシ山など、まずは環境省の直轄登山道で整備を行う予定。今までに設置した新たな標識については大きな損傷はなく、今後情報が改まっても表示板を交換できるもので、長く使えると思う。ただ、四角い柱はヒグマが齧りたがるようで、歯形が見つかっている。

5. 閉会